おおさかヒートアイランド対策推進計画（案）の概要【テキスト版】

**現状**

大阪では地球温暖化による気温の上昇や都市化に伴うヒートアイランド現象による気温の上昇により熱環境が悪化している。

大阪の気温は100年で約2.1℃上昇、全国の平均は 100年で約1.0℃上昇しており、ヒートアイランド現象により100年で約1.1℃の気温上昇している。

夏の夜間については、1998年から2002年の各7～9月における熱帯夜日数は現状と比較すると、大阪府域で37日⇒34日と約0.8割減少している。地球温暖化による気温上昇の影響を除外した場合、大阪府域で37日⇒32日と約1.4割減少している。（現状とは、5年移動平均の2011年)

夏の昼間については、日中の高温化による熱中症患者が2013年には4,000人を超えるなど、夏の昼間における暑熱環境（人の身体に影響を与える暑さ環境のこと）が悪化し、健康被害が増加している。

**計画の趣旨**

大阪府と大阪市で平成26年3月に既計画の目標等を統一した「大阪府市ヒートアイランド対策基本方針」を作成し、対策を推進。本計画では、大阪府と大阪市が、基本方針をベースに大阪府環境審議会の答申や国のヒートアイランド対策大綱を踏まえ、ヒートアイランド対策の基本的な考え方や目標、取組内容を定めた。従来の夏の夜間における対策に加え、夏の昼間における人の熱ストレスを軽減し、短期的に効果の現われる対策（適応策）の推進について、新たに追加した。

**今後のヒートアイランド対策**

○基本的な考え方

・建物・地表面の高温化抑制や人工排熱の低減等の取組である「緩和策」の着実な推進。

・「緩和策」に加え、人の健康への影響等を軽減する取組である「適応策」について推進。

・特に大阪の都心部においては、都市の再開発や都市基盤の再整備の機会を捉え、多様な対策メニューについて実施。

・熱帯夜日数の削減に向け、新たに対策指標を設定し、適切に進捗管理を実施。

○計画期間

2015年度から2025年度まで

○計画目標

目標１　住宅地域における夏の夜間の気温を下げることにより、地球温暖化の影響を除外した熱帯夜日数を2000年より3割減らす

目標２　屋外空間における既存のクールスポットの活用や創出をすることにより、屋外空間における夏の昼間の暑熱環境を改善する

○取組の推進

■人工排熱の低減

・建物の断熱化、設備・機器等の省エネ・省CO2化及び運用改善

・エコカーの普及促進、エコドライブの推進

・エネルギーの見える化による省エネ意識の向上

■建物・地表面の高温化抑制

・建物表面の高反射化、緑化、太陽光パネル等による蓄熱の低減

・建築物の環境配慮制度による対策の促進

・道路や駐車場への透水性・保水性舗装の施工

■都市形態の改善

・公共空間・道路沿線民有地での緑化の促進

・都市公園や大規模緑地の整備、適切な維持管理

・風通しに配慮した取組を推進

人工排熱の低減、建物・地表面の高温化抑制、都市形態の改善により、熱帯夜日数の削減を目指す。

環境省と連携して開発した「メッシュ熱負荷・気温予測システム」を活用し、対策指標から得られる大阪府域の気温変化量を把握し、熱帯夜日数の削減対策の進捗管理を行う。

対策指標とは、省エネ活動実施率、高反射塗装・瓦普及率、屋上緑化普及率、壁面緑化普及率、太陽光パネル普及率、透水性・保水性舗装普及率、高反射舗装普及率、市街地における緑被率である。

■適応策の推進

・適応策として効果のある緑化手法の検討及び普及

・適応策の普及検討

・公園や公開空地等のクールスポットのネットワーク化

・マップやHP等を活用した身近なクールスポットの周知と活用

適応策の推進により、暑熱環境の改善を目指す。

○進行管理、推進体制

毎年、熱帯夜日数の状況やヒートアイランド対策の取組状況等について、点検・評価を実施

　府域市町村とさらなる連携によりヒートアイランド対策を推進